



うちどく 家読のススメ

No. 1
2014. 3. 5 発行



「家読(うちどく)」とは、学校で行われている「朝の10分間読書(朝読(あさどく))」の習慣を家庭にも取り入れて、読書の楽しさを家族で味わおう・家族のコミュニケーション方法として読書を活用しようという読書スタイルの1つです。

○家読(うちどく)ってどうやるの？

基本は「家族で同じ空間で本を読んで、感想を共有する」だけ！

同じ本を読む・おすすめの本を教えあう・読んでもらう・自分で読む・感想や意見は話しあう・家読ノートを用意して記録する…

それぞれの家庭に合ったやり方で、本をきっかけに家族で会話ができればそれが「家読(うちどく)」になります。

○家読(うちどく)って何がいいの？

家族それぞれの立場で気持ちを話してあげる、誰かが話したいサインを出したら聞いてあげるといように、

「本を通してゆったりした家族のコミュニケーションをとることができる」のが、家読の魅力です。

無理に感想や意見を言わなくちゃ…同じ気持ちにならなくちゃ…と思わなくても大丈夫です。大切なのは、「こんな風に思った」を受け止めることです。

○家読にオススメの本

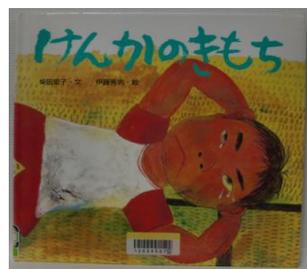
「家族」「友達」などの話題に出しやすいテーマの本から、「命」について語りたい時の本、お父さんに読み聞かせてほしい本まで、こどもとしゃかんからオススメの本を紹介します。



『ちよっとだけ』

瀧村有子 / さく
鈴木永子 / え
福音館書店
2007年

“ちよっとだけ”我慢する、でもまだまだ甘えたい……そんなお姉ちゃんの姿を描いた絵本です。甘えてほしいお母さんの気持ちもこもっています。
☆3歳～小学校低学年向き



『けんかのきもち』

柴田愛子 / 文
伊藤秀男 / 絵
ポプラ社
2001年

けんかが終わっても、けんかの気持ちは続いているんだぞ！一番の友達とけんかして、負けて、くやしさをなかなか消化できない男の子の姿を豪快なタッチで描いた絵本です。
☆5歳～小学校低学年向き



「命」「平和」についての本

『おじいちゃんのごらくごらく』西本鶏介 / 作、長谷川義史 / 絵、鈴木出版、2006年
☆4歳～小学校低学年向き

『エリカ 奇跡のいのち』ルース・バンダー・ジー / 文、ロベルト・インノチェンティ / 絵、柳田邦男 / 訳、講談社、2004年
☆小学校中学年～向き

『100万回生きたねこ』佐野洋子 / 作・絵、講談社、1977年
☆幼児～大人まで幅広く



「お父さん読んで！」の本

『かぞえうたのほん』岸田衿子 / 作、スズキコージ / え、福音館書店、1990年
☆3歳～小学校低学年向き

『ちからたろう』いまえよしとも / ぶん、たしませいそう / え、ポプラ社、1997年
☆4歳～小学校低学年向き

『あらしのよるに』きむらゆういち / 作、あべ弘士 / 絵、講談社、2000年☆5歳～小学校中学年向き



会津若松市立会津図書館